



→えらい静かな年の暮れになりそうな雰囲気だが、これが案外はずれたりするのだ。18日はとりあえず平穏。2週間後はどうなっている？



↑寒い国からやって来た鳥らしく襟巻きが似合う。頭のアンテナはやっぱり地デジを感知するのかなあ？ 飛び立つときは、猫のような声で鳴く。

涙が止まらない。そんな季節になってきた。別に失恋をしたわけでもないし、親と死に別れたわけでもない。

強い西風に、目を開けていられないのだ。矢切の台地から渡しの乗り場に下りるには、ちょうど向かい風になる。これからは、風が吹けば涙か鼻水をすするところになる。十二月十八日は、さして風もなく穏やかな日だった。

穏やかついでに矢切畑周辺をうろろしていたら、ちば野菊の里浄水場で頭にアンテナを立てた鳥が二羽、しきりに餌をついばんでいた。

そいえば、今年のいまごろは、ただの草地だった。もちろん浄水場の敷地ではあつたが。

ところが、今年は草地にブルーシートをかぶせた、何だろう、焼却灰だろうか汚泥だろうか、何列にもわたって積まれている。

ちよつと来ないうちに列が増えているから、いつか、どこかから運ばれてきているのだろうか。

市も県も何も言わないから、はつきりとしたことはわからないが、おそらく放射性廃棄物を含んだ泥か灰で間違いない。

今週のクマ

→気のせいかな、このところのクマは、ときどき虚ろな表情をするときがあるが、ブルーシートのせいなの？ なんとって犬は人間の何倍も鼻がいいそうだから……………。



↑高砂百合の鞘が天を向いて口を開いていた。種はもう風に飛ばしたのだろうか。一年にひと鞘つつ増えるそうだから何年物だろうか？

もともとタゲリは、矢切に棲む鳥ではない。凶鑑などを見るとユーラシア大陸で繁殖し、冬になるとユーラシア大陸南部、あるいはアフリカ大陸北部で越冬するということだ。何のために日本に飛来するのかしれないが、一部に繁殖した記録もあるようだが、それはたぶん例外なのだろう。

ちよつと気になるのは、去年はたくさんだったのが、今年はいまのところワンペアだけだ。それも羽休みをしていた草地はブルーシートに占領され、極端に狭くなってしまった。ひよつとしたら、遊び場がないので、ひと休みせずに目的地まで足を？ いやいや羽を伸ばしたのかもしれない。

それにしても、なんの予告も報告もないままにブルーシートの山だけが増えていくのは、どうも釈然としない。いったい、草地がいつまであるのか、そのくらいは教えてほしいものだ。

ひよつとしたら飛来するタゲリが暗示してくれているとしたら、ねえ、人間様、いつまでも沈黙していいの？

うんとか、すんとか、言ってほしいな。そうじゃないと、気持ち悪いじゃないの。えッ！ 知らなきやいいんだって？ それはないんじゃないの？